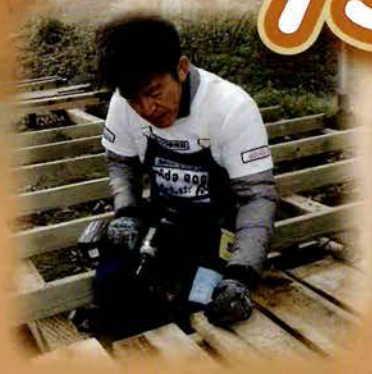
児童相談所
全国共通
ダイヤル
いち はや く
189

ながの子ども虐待防止

オレンジリボン たすきリレー

2020～2021

活動報告書



「オレンジリボン」と「オレンジリボンたすきリレー」について

「ホーリン」Designed by YOSHIKAZU MIYAO

「オレンジリボン」マークは、2004年に栃木県小山市で幼い兄弟が虐待の末に川に投げ捨てられ死亡した事件をきっかけに、子ども虐待防止のシンボルとして定められたものです。2007年には啓発活動の一環として、神奈川県で第1回「オレンジリボンたすきリレー」が開催されました。その後多くの企業、機関、著名人の賛同を得て、日本全国に広がり続けています。実行委発足から7年目を迎えた長野県では、コロナ禍による様々な制約の下、たすきリレーという形にこだわらずに様々な啓発活動を実施致しました。この活動を継続していけますように、皆様のご理解とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

主催：ながの子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会

実行委員長挨拶

お世話になっております。今年もコロナ禍で虐待の件数が全国的に増加する中 、オレンジリボンたすきリレーが開催できず残念に思っています。しかし形を変えた189チャレンジを行い、各地でイベントも行えたこと、沢山の方に参加頂き、参加者からも喜んで頂き、盛況に終わりました。これも長年皆様からの暖かいご支援のたまもので、実行委員長として嬉しい限りです。その後のコロナ感染なく無事終了したのも、皆様の感染対策のご協力あったからと思います。最近はオミクロン株の広がりに毎日ハラハラさせられております。本当に今後どうなっていくか、コロナの終息の見込みが見えず、来年度はどのような形になるかわかりませんが、今後も私たちは、虐待防止の啓発に努めて参りたいと思います。

今後もご支援よろしくお願いいたします。

ながの子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員長

太田 美穂子

後援団体メッセージ

ながの子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会の皆様の創意工夫や協賛団体の皆様の御協力により、コロナ禍の中、11月の児童虐待防止推進月間に県内各地で児童虐待防止推進活動が展開されたことに感謝申し上げます。

私も同月間に合わせ、児童虐待防止啓発メッセージを発信させていただきました。また、オレンジリボンたすきリレー実行委員会が企画した「広めよう！189チャレンジ」の趣旨に賛同し、児童相談所虐待通報ダイヤル「189」をより多くの人に知ってもらうとともに、子どもたちの笑顔があふれる社会になってほしいという願いを込めて、「県庁見学に訪れた小学生189人以上とグータッチ」を行うことを宣言し達成しました。

さて、昨年度県内の児童相談所で対応した児童虐待相談は2,825件となり、過去最高を記録しました。この数字については、児童虐待が早急に対処すべき深刻な問題であることをあらためて認識させられる一方、地域の方々が児童虐待に目を向け、社会全体で解決すべき課題であるとの意識が広がってきたことの表れとも考えております。

今後も、ぜひ皆さんと力を合わせて、児童虐待に苦しむ子どもやその保護者の社会的孤立を防ぎ、誰一人取り残さない社会の実現、全ての子どもたちが笑顔で未来に夢と希望をもって生きていける長野県にしていきたいと思っておりますので、引き続き御支援と御協力をよろしくお願いします。

長野県知事　**阿部 守一 様**

阿部長野県知事も
「189チャレンジ」に挑戦！

逆に子ども達からたくさんの
元気をもらいました

◀県庁見学に訪れた小学生
189人以上とグータッチ

共催団体よりメッセージ

本学は、子どもに関わる人材となる学生に、子ども虐待防止のために「行動すること」の大切さを伝えることを目的として、「オレンジリボンたすきリレー」に開始当初より関わらせていただいています。昨年度は残念ながらコロナ禍で開催が中止となりましたが、本年度は「189チャレンジ」という新たな形で、本学幼児保育学科1年生94名が参加させていただきました。子ども虐待が増加している事実や、その背景、防止のための取り組みを伝えることは大切です。そしてさらに未来の保育士に必要なことは、「なぜ虐待が起きてしまったのか」、「なぜ未然に防ぐことができなかったのか」を一人ひとりが考え、なくすための行動をすることです。どこか遠くで起きている痛ましい出来事ではなく、子ども虐待は自分の身近で起こっている、自分が防がなくてはならない課題であるという当事者としての意識を持つことが大切です。本学の「189チャレンジ」は1890個のドミノ倒しや、189回の大縄跳びといった一見課題解決とは関係のない取り組みでした。「遊んでいるだけでは…?」と言う声が聞こえてきそうですが、189の意味を自分が知り、それを他者に伝えるための具体的な行動をおこなったという事実は、他人事を自分事にするための第一歩であったと思います。

松本短期大学　幼児保育学科　専任講師　**松澤 高志 様**

◀大縄189回
チャレンジ動画

◀ドミノ1890個
チャレンジ動画

189チャレンジ参加団体よりメッセージ

2018年5月、高森町では子育て応援センター「あったかてらす」の開所に併せ、「高森町みんなの未来 全力応援宣言」を行いました。その宣言には「親、家族、友人や先生、近所の方などが、社会との関係性の中で、子どもたちを優しく見守り、成長を支えます。」という一節があります。複雑・多様化する社会に子育てする親や家庭は少なからず影響を受け、それにより子どもたちを取り巻く環境も大きく変化してきています。私は、子どもの虐待を防ぐには、家庭を孤立させない、子どもたちを孤独にさせないことだと考えています。そこで、多くの「人」が子どもや家庭に関わることが、未来を担う子どもたちの健やかな成長に繋がると信じ、「あったかてらす」を拠点に地域の皆さまや事業者の皆さまと一緒に様々な活動を展開しています。そのような折、ながの子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行員会の皆さまから、11月に開催された「信州発!広めよう!189チャレンジ」をご紹介いただきました。高森町では町民の皆さまへの広報を行い、私は、職員と一緒に「189チャレンジ」をSNSに投稿させていただきました。

このように、オレンジリボン運動が多方面に広がり、子どもの虐待問題に関心を寄せる人が増え、虐待のない社会が築かれることを心から願っています。実行委員会の皆さまの活動に敬意を表すとともに、今後も町民の皆さまと一緒に、微力ながらお手伝いをさせていただきます。

高森町長　**壬生 照玄 様**

◀健康福祉課による189チャレンジ
市田柿189個分の皮を使って189動画